

いわて 復興 だより

がんばろう!岩手 つなごろう!岩手
第189号
令和4年度第6号



三陸復興

平成23年3月11日に東日本大震災津波が発生しました。発災以来、国内外から多くの温かい励ましや御支援をいただいております。心から感謝申し上げ、この「つながり」を大切に、復興のステージを更に前に進めていく岩手県の今を紹介します。

東日本大震災津波 岩手県・釜石市合同追悼式

岩手県・釜石市
IWATE・KAMAISHI

岩手県と釜石市は、東日本大震災津波から12年となる令和5年3月11日(土)、釜石市民ホールTETTOで、東日本大震災津波 岩手県・釜石市合同追悼式を執り行いました。

当日は、渡辺博道復興大臣や県選出国會議員を始めとする御来賓のほか、釜石市内在住の御遺族・市民など約250名が参列し、地震発生時刻の14時46分に合わせて黙とうを捧げました。

式辞で、達増知事は「私たちは、これまで、何度も大きな津波被害に見舞われてきましたが、決してくじけず、県民が協力し合い、苦難を乗り越えて参りました。将来、発生が予想される巨大地震に対しても、過去の災害の経験と教訓を忘れず、津波による犠牲者を決して出さないという強い決意で、対策に取り組んで参ります」と述べました。



式辞を述べる達増知事

また、御遺族代表として、両親を亡くした佐々木淳子さんが「複数の遺体安置所を何度も訪れました。見つけたいと思う一方で見つけられなかったことで安堵するという不思議な感覚でした。結局、確認できませんでしたが、後にDNA鑑定で両親であると判明し、私達の元へ帰ることができま



御遺族を代表して追悼の言葉を述べる佐々木さん

した。災害弱者である高齢者や障害者の対応等課題は多く、教訓を伝える重みは増えています。未来の命を守るために“釜石市防災市民憲章 備える 逃げる 戻らない 語り継ぐ”を継承していきます」と追悼のことばを述べました。

この後、参列者は献花台に花を手向け、犠牲になられた方々を悼み、大切な人に想いを寄せました。



献花をする野田釜石市長



献花をする渡辺復興大臣



黙とうを捧げる参列者

■問い合わせ 岩手県復興防災部復興推進課
☎019-629-6945

発表

高田第一中の生徒が高田小
で震災学習の成果を発表陸前高田市
RIKUZENTAKATA

生徒が震災学習の成果を発表する様子(写真提供:陸前高田市)

令和5年1月27日(金)、陸前高田市立高田第一中学校の3年生19人が、市内の高田小学校を訪問し、東日本大震災津波の教訓と防災の大切さを伝える活動を行いました。高田第一中の3年生は、総合的な学習の一環で、「伝承」「防災」「避難所」の3チームに分かれて東日本大震災津波について学んでいます。

当日は、伝承チームが震災直後のまちの様子や人々の思いを伝える手作りの紙芝居を披露したほか、防災チームは防災バッグの中身や備えの大切さについて発表し、高田小の5、6年生53人が真剣な眼差しで耳を傾けました。また、避難所チームは、避難先で運動不足を解消できるオリジナルのダンスを披露し、児童と一緒に体を動かしました。

生徒たちは、「震災の年やその後に生まれた子どもたちに、私たちが伝えられることを伝えていきたい」と震災の風化防止や伝承活動の意義を語っていました。

■問い合わせ 陸前高田市立高田第一中学校
☎0192-55-3921

公開

復興情報発信 ポスター&
動画の新作を公開岩手県
IWATE

令和5年2月、岩手県は、東日本大震災津波の記憶・教訓の伝承と復興支援への感謝、三陸の今を発信するため、「いわて・三陸から ありがとう!」をテーマとした県外向けポスター4種類と動画2種類を公開しました。

ポスターは、「宮古(宮古うみねこ丸)」編、「大槌(県立大槌高校復興研究会)」編、「釜石(かまいしDMC 小松野麻実さん)」編、「大船渡(キャッセン大船渡)」編を制作し、震災後から地域の様子を定点観測している高校生や、地域の新たな賑わいの創出に取り組む方々などを紹介しています。また、動画は、「宮古・大槌編」と「釜石・大船渡編」を制作し、陸前高田市出身の俳優 村上弘明さんが沿岸市町村を巡りながら、地元の方々との交流を通じて、いわて・三陸の魅力を伝えています。

ポスターと動画は、特設サイト「いわてとあなたが、つながるページ」で公開していますので、是非ご覧ください。

■問い合わせ 岩手県政策企画部広聴広報課
☎019-629-5283



ポスター「大槌(県立大槌高校復興研究会)」編

「いわてとあなたが、つながるページ」はこちら↓

つなみ
世界へ、未来へ いわてTSUNAMIメモリアル

東日本大震災津波の事実と教訓を伝える施設「東日本大震災津波伝承館」(いわてTSUNAMI(つなみ)メモリアル)を紹介します。

令和5年3月11日(土)、東日本大震災津波伝承館は、令和元年9月22日の開館から4度目の「3月11日」を迎えました。

東日本大震災津波発災から12年を迎えたこの日、高田松原津波復興祈念公園には、県内外から大勢の方々が訪れ、防潮堤や奇跡の一本松などに向かう列が続きました。

また、伝承館には、1,000人を超える来館者があり、当時の状況を知らない子どもたちと展示について話し合う親子連れや、解説員の説明を真剣な表情で聞く団体の姿が見られ、解説員は震災津波を伝えていくことへの決意を新たにしました。

そして、地震発生時刻の14時46分を迎えると、来園者は海に向かい黙とうし、震災津波で尊い命を失われた方々に祈りを捧げました。その後も、伝承館の見学や献花台に花を手向ける方々など、来園者は途切れることがありませんでした。

同日の夕方からは、国営追悼・祈念施設の水盤周辺に、伝承館を訪れた高校生が制作した「花ろうそく」が灯され、多くの来園者が足を止めて揺れる灯を見つめながら、発災当時に思いを馳せていました。

東日本大震災津波伝承館では、この悲しみを二度と繰り返さないために、震災津波の事実と教訓を国内外に、未来に、伝え続けていきます。

■問い合わせ 東日本大震災津波伝承館 ☎0192-47-4455



施設関係者による黙祷の様子



水盤周辺に灯された「花ろうそく」



制作

「いわての復興教育」絵本『みんながいるから』制作

岩手県
IWATE

令和5年2月、岩手県は、「いわての復興教育」の一環として、4～5歳の未就学児向け教材の絵本『みんながいるから』を制作しました。絵本は、昨年度の『ててをつないで』に続き2作目となります。

この絵本は、「いわての復興教育」の3つの教育的価値「いきる」「かかわる」「そなえる」のうち「かかわる」をテーマとしたもので、絵本を活用して、郷土の復興・発展を支える「ひとづくり」を目指すものです。

絵本では、車を擬人化した主人公のキッチンカー「カーチン」が、仲間と仮設住宅を訪問したり、暴風雨の中で避難所へ駆け付けたりして感謝の言葉をもらいながら、地域や周りの人々と共に困難を乗り越える物語となっており、人との関わりを通して成長する姿を描いています。

県では40,000部を印刷し、幼稚園やこども園等の就学前施設のほか、図書館や公民館等の生涯学習施設、読書ボランティア団体、各学校等へ配付し、読み聞かせなどで活用していきます。



「いわての復興教育」絵本『みんながいるから』

■問い合わせ

岩手県教育委員会事務局学校教育室

☎019-629-6206 絵本についてはこちら→



取組

県立山田高校の生徒と山田町が津波碑のガイドマップを作成

山田町
YAMADA

令和5年2月、県立山田高校1年生19人と山田町が共同で「山田町津波碑ガイドマップ」を作成しました。

ガイドマップは、明治29年(1896年)と昭和8年(1933年)の三陸大津波を記録する町内の津波碑をまとめたもので、被害の記録や犠牲者への追悼の意を刻む町内14箇所の石碑を紹介しています。また、町内に点在する津波碑の場所と共に最寄りのバス停や三陸鉄道の駅からの所要時間も掲載し、足を運びやすくする工夫をしています。

生徒たちは、東日本大震災津波の発生当時は幼かったため、今回のガイドマップの作成を通して改めて津波の恐ろしさ学んだほか、今後、町と共同で津波碑の近くに内容を分かりやすく紹介するパネルも順次設置することとしています。

ガイドマップは5,000部発行し、山田町中央公民館などで配付するとともに、山田町のホームページでも閲覧することができます。

■問い合わせ 山田町生涯学習課

☎0193-82-3111

山田町津波碑ガイドマップはこちら→



山田高校の生徒たちが「山田町津波碑ガイドマップ」を紹介する様子(写真提供:山田町)



さんりくイベント情報

第73回全国植樹祭 ～緑をつなごう 輝くイーハトーブの森から～

陸前高田市
RIKUZENTAKATA

「緑をつなごう 輝くイーハトーブの森から」を大会テーマとして、高田松原津波復興祈念公園で第73回全国植樹祭を開催します。林業の持続的で健全な発展や森林の多面的機能に対する理解の醸成を図るとともに、東日本大震災津波からの復興の姿を国内外に発信します。

主催

公益社団法人国土緑化推進機構、岩手県

開催日

令和5年6月4日(日)

式典会場

高田松原津波復興祈念公園(陸前高田市) サテライト会場*

イオンモール盛岡(盛岡市)、江釣子ショッピングセンター・パル(北上市)、道の駅「いわて北三陸」(久慈市)(令和5年4月完成予定)

*サテライト会場では、全国植樹祭を体感できるようライブ中継などを実施。

開催規模

4,200人(招待者2,200人、出演者・スタッフ等2,000人)

●問い合わせ

第73回全国植樹祭岩手県実行委員会事務局(岩手県農林水産部全国植樹祭推進室)

☎019-629-5790

【式典行事】

プロローグ	歓迎と感謝の言葉、プロローグアトラクション、感謝状の贈呈、記念切手の贈呈など
記念式典	黙とう、天皇皇后両陛下のお手植え・お手播き、大会テーマの表現、大会宣言、リレーセレモニーなど
エピローグ	エピローグアトラクション

【植樹行事(招待者記念植樹)】

会場名	本数	主な樹種
高田松原津波復興祈念公園	約3,000本	オオバクロモジ等 計32種
高田松原運動公園	約300本	オオヤマザクラ等 計17種



大会公式ホームページ

←第70回全国植樹祭あいち大会(お手植えの様子)



道の駅 「いわて北三陸」

北三陸の“海・山・里・ひと”をつなぐ交流拠点施設

道の駅「いわて北三陸」では、twitter、Instagramで情報発信しています。



令和3年12月の三陸沿岸道路の全線開通をきっかけとして、北三陸のアクセスがますます便利になりました。おいしい海の幸や三陸ジオパークなど、魅力ある久慈広域4市町村(久慈市、洋野町、野田村、普代村)の玄関口として、今春、道の駅「いわて北三陸」が三陸沿岸道路久慈北ICのすぐそばにオープンします。

道の駅は、南部曲がり家をイメージしたL字型の木造平屋で、普通車が131台、大型車が20台駐車することができ、民設民営のガソリンスタンドを併設しています。

施設内では、イベントなどに利用できる多目的ホールや地元の味が楽しめる飲食・物販スペースに加え、久慈広域4市町村の情報発信ブースもあり、気軽に近隣市町村の観光情報を入手することができます。また、子どもが楽しく遊べる施設として、高さ5mにも及ぶ大型遊具を設置したキッズスペースのほか、様々なイベントが開催できるイベント広場や広域ホールなども備え、老若男女問わず、幅広い年代の方が楽しめる施設となっています。

さらに、イベント広場には、ポケットモンスターの「いわ」タイプのポケモンがあしらわれた遊具が並ぶ「イシツブテ公園」もオープンする予定です。

開業は4月19日を予定しており、三陸道の久慈地域の玄関口として多くの観光客が立ち寄ることが期待されています。

場所 岩手県久慈市夏井町鳥谷第7地割3-2
問い合わせ 久慈市総合政策部広域道の駅整備推進室
 ☎0194-52-2115



道の駅「いわて北三陸」(写真提供:久慈市)

久慈市★

盛岡市 宮古市

金石市

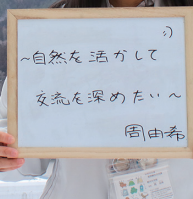
いわてさんりくびと

連載「いわてさんりくびと」では、被災地・三陸の復興に向け、熱い想いをもち、活躍する方々を紹介します。第135回は周 由希さんをご紹介します

岩泉町役場 経済観光交流課

観光交流室 主任

じゅう ゆうし
周 由希さん



～自然を活かして交流を深めたい～

PROFILE ——中国出身。アメリカ・インディアナ州の大学在学中、日本の大学に留学し、インターンシップで岩泉町の魅力に触れる。平成29年10月からインバウンド担当として岩泉町経済観光交流課に勤務。語学を生かしながら、ドローンを使った動画発信や町の観光資源を生かした体験メニューづくりに取り組む。

自然がきれいで、人が優しい町

周由希さんと岩泉町との出会いは平成27年、大学でのインターンシップがきっかけでした。

「自然がすごくきれいで、どんな町なのか興味を持ちました。ホームステイをしながら菓子店の工場で働いたのですが、従業員の皆さんと仲良くなりましたし、美味しいものがたくさんあって、良い町だと思いました」と振り返ります。

大学卒業後、アメリカや中国での勤務を経験しましたが、周さんは岩泉町に戻ることを考えます。

「私が人生の岐路に立っていた平成28年は、岩泉町が台風10号の被害に見舞われた年でした。町の人たちと連絡を取る中で、町を応援したいと思うようになりました。岩泉町で職員を募集していることを知り、『外国

人でも大丈夫でしょうか?』と確認したところ、当時はラグビーワールドカップなどで盛り上がっている時期で、インバウンド担当の任期付き職員になることができました」と話します。

交流することで、理解を深める

周さんは現在、役場職員として6年目に入り、SNSによる町の情報発信や、観光施設管理など、幅広く業務を担当しています。早坂高原の利用促進にも力を入れており、フィンランド発祥のアウトドアスポーツ・モルックの大会を企画し、今年9月9日に開催する予定です。

「外国人との理解を深めるためにも、交流することが大事だと感じています。これからも楽しいイベントを企画して、ワイワイにぎやかに岩泉を盛り上げていきたいです」と笑顔で語ります。

岩手県の被害状況

令和5年2月28日現在

- 人的被害 死者：5,145人(余震、震災関連死を含む)
行方不明者：1,110人
- 建物被害(住家のみ、全半壊)26,079棟
被害状況等の詳細/義援金・寄附金の募集等

いわて防災情報ポータル

検索

皆様のご支援、ありがとうございます

令和5年2月28日現在

- 義援金受付状況 約188億3,924万円(99,014件)
- 寄附金受付状況 約205億1,275万円(17,998件)
- いわての学び希望基金(*)受付状況 約105億8,338万円(27,339件)
※被災した子どもたちが勉強やスポーツ等に励めるよう「くらし」「まなび」の支援に使われます。



いわて震災津波アーカイブ～希望～

約24万点の資料を検索・閲覧できます。

いわて震災津波アーカイブ

検索



いわて復興だより 第189号

令和5年3月24日発行 企画・発行/岩手県復興防災部復興推進課 ☎019-629-6945 編集・校正/永代印刷株式会社

次回は令和5年秋頃の発行を予定しています。